

高安株式会社 〒504-0828 岐阜県各務原市蘇原村雨町3丁目47番地 TEL:058-382-2231(代表) FAX:058-389-4563 http://www.takayasu-rf.co.jp/

人としての生き方、経営者の考え方、心根の在り方を教えてくれた3兄弟。



高安株式会社の初代社長
高安良雄

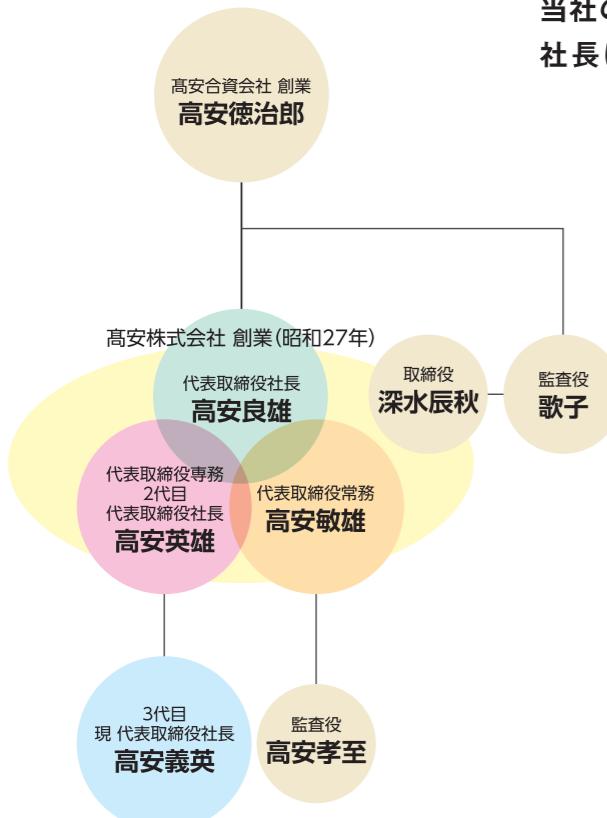


高安株式会社の2代目社長
高安英雄



高安株式会社の元副社長
高安敏雄

高安株式会社役員図



高安株式会社は、創業者である高安良雄・英雄・敏雄の3兄弟のことなくしては語れません。10月1日の創業記念日を前に、当社の歴史や創業の精神を皆さまにご紹介するべく、高安義英社長に3兄弟について語っていただきました。

今まで受け継がれる、3兄弟の経営理念と社風。



早いもので、私が高安株式会社に入社して53年、2代目社長の父・高安英雄の跡をついで17年になります。創業者3兄弟の良雄・英雄・敏雄が掲げた「事業を通じて社会に貢献し、関連する人々の幸福の増進に役立つ」という経営理念とアットホームな社風は、高安のDNAとなりました。それぞれに強い個性を持った3兄弟で、私自身の心の根もつくってくれました。そんな彼らから直々に熏陶を受けた人は、社内外を見渡しても、もう少数。そこで今回は、創業者3兄弟のさまざまなエピソードを交えながら、高安の黎明期を振り返ってみたいと思います。

戦争という時代の荒波の中で生まれた高安の根源。

今日の高安株式会社は、大正6年(1917)に祖父の高安徳治郎が高安合資会社を起こしたことに始まります。当時の世相は戦争に突入する直前の軍需景気。徳治郎はその類いまれな商才と広い人脈を生かし、繊維を中心とした軍需品の生産で業績を伸ばしました。昭和の初めに事業を引き継いだ徳治郎の3人の息子、良雄・英雄・敏雄が力を合わせてさらに会社を発展させるも、終戦によって経営危機に陥り、高安合資会社は倒産を余儀なくされます。しかし、3兄弟は再び立ち上がり、昭和27年(1952)に毛織物の小口販売を生業とする高安株式会社を設立。資金不足など幾多の困難を乗り越え、ある縁から大手繊維メーカー様とのナイロン糸屑事業をつかむ幸運を得ます。昭和29年(1954)、私が中学生の頃でした。

当時を思い起こすと、会社から持ち帰った屑綿を丹念にほどいて、素材の配合割合を調べる父・英雄の姿が記憶にあります。どうしたら回収した糸屑に付加価値をつけることができるか、研究していました。英雄は、ひとたび机に向かうと寝食を忘れて没頭し、それは「ごはんよ」と言う母の声も耳に入らないほどでした。

「何としても事業を軌道に乗せたい」。

3兄弟の思いは、戦前から戦後の荒波と貧しさを生き抜いた誰もが抱いた時代の気概であったかもしれません。やがてそれが実を結び、高安は糸屑の選別や洗浄に独自のノウハウを蓄積。昭和30年代の合成繊維の発展とともに業務を拡大してきました。

後に「高安会」へ進展する全国の回収協力店との付き合いが始まったのもこの頃です。とりわけ濱田金一郎商店さん(大阪)との出会いは強烈で、当社が濱田さんの顧客と直接取引をしたことに立腹され、怒鳴り込まれたのです。しかし真摯に応対した3兄弟に濱田さんが胸打たれ、袂を連ねることに…。何とも人情味あふれる、大阪商人らしいエピソードです。



▲高安合資会社を創業した高安徳次郎・よね夫妻 ※昭和10年ごろ



▲高安株式会社の初代社長・高安良雄(右)と元専務・高安英雄(後の2代目社長)※昭和16年ごろ

戦国武将・毛利元就の「三本の矢」の教えのごとく。

良雄・英雄・敏雄の3兄弟には「三本の矢」のごとき結束力、それぞれに絶妙な役割分担がありました。陣頭指揮や人脈づくりは良雄が、資金調達や会社のオペレーションなどの管理は英雄が、実務の対外的な折衝・調整は敏雄が担っていました。例えるなら良雄は外務省、英雄は大蔵省、敏雄は通産省といったところでしょうか。対人面でも兄弟それぞれの持ち味がありましたが、「関わるすべての方を大切にする」という根本は皆同じ。当社の永年勤続者の多さや回収協力店との固い絆は、まさに3兄弟が育んだ企業風土と経営基盤の賜物でしょう。

文化や芸術を好み、さまざまな分野に物心両面から支援を行っていたのも3兄弟の共通点です。敏雄にいたっては自身も俳句をたしなみ、自宅に茶室も設けていました。今でいうワーク・ライフ・バランスを推奨し、自ら実践していたわけです。

このように経営者として、人としての生き方を導いてくれた3兄弟の教えは、私にとって大切な財産。誇りに思うと同時に、次世代に継承していく責任の重さを感じます。

高安株式会社は、昭和40年代から新規事業にも積極的に挑み、手探りで道を切り開いてきました。中でもリサイクル樹脂事業は、私が最も力を注いできた部門です。これは、3兄弟の夢や情熱を受け継ぐ多くの仲間との努力によって成し遂げたものにはかななりません。その軌跡については、またの機会にお話します。

高野山法要

高野山法要は、創業期から続けている高安の大切な行事です。昭和18年に高安徳治郎が他界し、さらに出兵した高安合資会社の社員110名のうち10名が戦死したため、高野山に供養塔を建てて慰靈の法要を行いました。以来、高安に関わる物故者様を合祀し、供養法要を永々と続けています。今年も5月9日(金)・10日(土)に高野山を訪問しました。その模様は、次回の高安ニュースで詳しくお伝えする予定です。



▲高野山供養塔の前に立つ高安良雄初代社長 ※昭和37年



▲供養塔過去帳